

3 岩国地域畜産クラスター協議会における肉用牛振興の支援

東部家畜保健衛生所

○河野紗希・永久瑞世・小南直司

R3年7月、岩国地域の肉用牛生産組織である山口東肉用牛部会を母体とし、岩国地域畜産クラスター協議会（以下、協議会）が設立された。今回、協議会の中心的な経営体である3戸の農家（A、B、C）への取組を中心に、活動支援を行ったので紹介する。

1 取組と成果

1) 飼養規模の拡大・優良子牛の生産

当所は、優良繁殖雌牛の地域内保留及び増頭を支援するため以下の取組を実施した。岩国市の経営支援策の一つである市有牛制度について、市有牛幹旋委員会の役員として参画し、市有牛の交配や現地市場における導入牛選定に助言等を実施した。また、現地採卵の活用を推進し、繁殖雌牛の産肉能力向上に努めた。さらに生産基盤拡大加速化事業（以下、加速化事業）を活用し、農家の増頭を支援した。Aは酪農と肉用牛繁殖の複合経営のため、現地採卵及び受精卵移植を積極的に利用するとともに、加速化事業により増頭を図った。R2年度からR5年度の現地採卵実績は18頭で、繁殖雌牛は7頭増頭した。Bは肉用牛繁殖経営で、R2年度から経営を開始した。早期の増頭支援のため、加速化事業及び市有牛制度を活用し、R2年度からR5年度に6頭増頭した。CはH20年に就農した肉用牛一貫経営で、市有牛制度や家畜導入事業により繁殖雌牛の改良を進めた。結果、Cは山口県和牛共進会種牛の部においてR4、R5年度に優等一席を獲得し、優良子牛生産の成果を確認できた。

2) 自給飼料の拡大・循環型農業の推進

当所は、自給飼料作付面積の拡大を図るため、県産飼料生産・利用拡大促進事業（以下、県事業）を活用し、畜産農家と耕種農家との連携強化及び機械導入を推進した。また良質粗飼料の生産・調製技術の向上を図るため、協議会のサイレージ・乾草技術共励会（以下、共励会）の開催を支援した。その結果Aは、R4年度からR5年度にかけて稲WCSの作付面積は4.71a、青刈りとうもろこしは7.5a拡大した。Bは、R5年度の稲WCSの作付面積を169a確保し、専用品種による良質サイレージの調製に取り組んだ。Cでは、R4年度からR5年度にかけて稲WCSの作付面積が18a拡大した。また県事業の機械・施設整備支援を活用し、自走式ミニロールベアラを導入した。協議会全体では、更なる作付圃場の拡大及び品質向上に向け、県事業の専門家派遣事業を活用し、14圃場で生産された自給飼料について飼料分析を実施し、共励会に出品した。結果、稲WCSの部において、R4年度にB、R5年度にCが優良賞を受賞し、自給飼料の品質向上が確認された。また、堆肥の供給はR3年からR5年にかけてAで5.2ha、Bで0.5ha拡大した。Bでは稲わら交換も実施し、R3年からR5年にかけて2.4ha拡大した。

2 考察

近年、資材費の高騰や担い手不足等、畜産を巡る状況は依然厳しいが、当所は今後も取組を継続し、農家の経営を支援していきたい。